

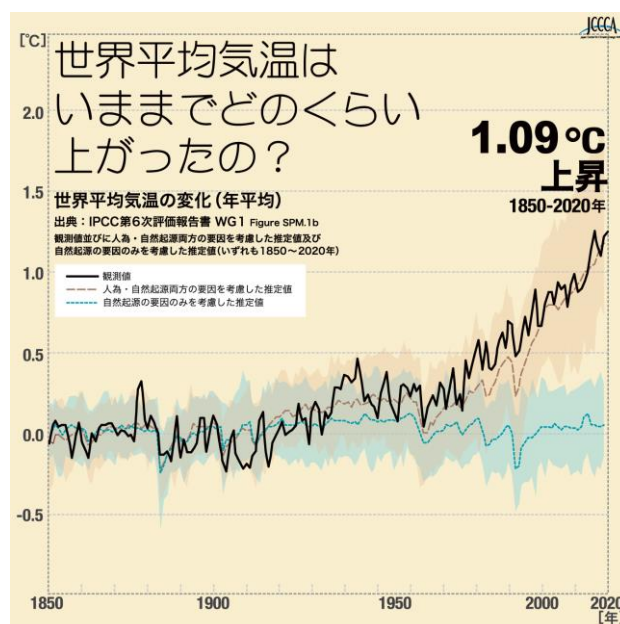
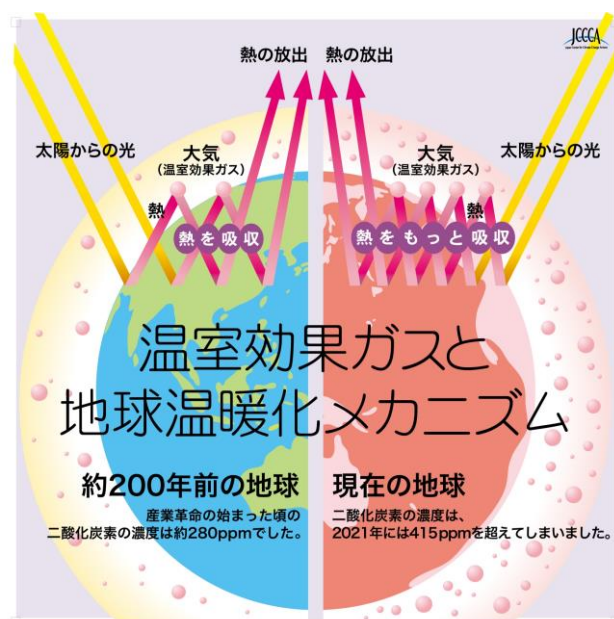
第1章 計画策定の背景

1-1 地球温暖化の影響

人間活動等に起因して大気中に放出される温室効果ガスによって地球が暖められる現象を「地球温暖化」といいます。

IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）が令和3（2021）年8月に発行した第6次評価報告書第1作業部会報告書では、「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と述べられ、将来の影響予測として、世界平均気温は少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続けることが予測されています。

地球温暖化の影響は、気温の上昇や海面水位の変化、生態系の喪失といった自然界だけでなく、インフラや食料不足、水不足等人間社会にも及ぶことが想定されています。



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター

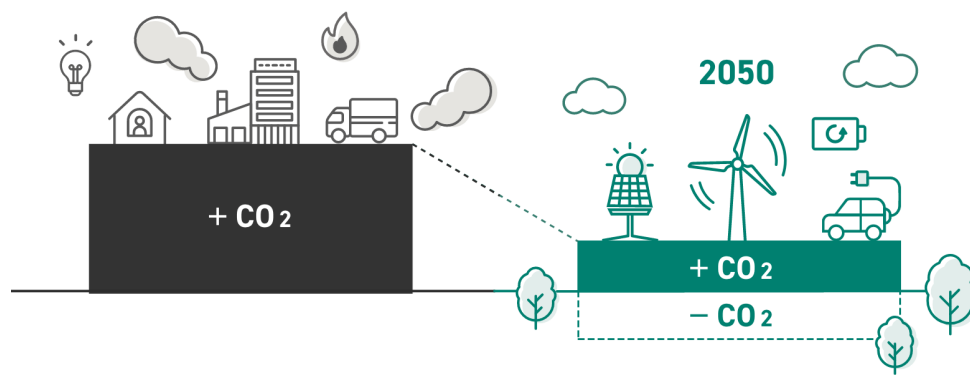
図1-1 地球温暖化の仕組みと世界の地上気温の経年変化

1-2 地球温暖化対策を巡る国内外の動向

(1) 国際的な動向

パリ協定や IPCC の第6次評価報告書、1.5℃特別報告書等を受け、令和4(2022)年には COP27 において、令和 12(2030)年までの緩和の野心と実施を向上するための「緩和作業計画」が採択されました。

また、令和5(2023)年に開催された COP28 では、パリ協定の目標達成まで隔たりがあること、目標達成に向けて行動と支援が必要であることが強調されており、世界各国ではカーボンニュートラル実現に向けた取り組みが進められています。



出典：環境省 脱炭素ポータル

図1-2 カーボンニュートラルのイメージ

コラム：1.5℃と2℃の気温上昇による影響の違い

IPCC によると、世界全体の平均気温が、1.5℃上昇するのと2℃上昇するのでは、0.5℃違うだけで、より大きな気候変動影響が生じるとされています。

1.5℃上昇		2℃上昇
2 倍に増加	洪水の影響を受ける人口	2.7 倍に増加
14%	少なくとも 5 年に 1 回深刻な熱波に見舞われる世界人口	37%
100 年に 1 度	北極に氷のない夏	10 年に 1 度
70～90%	サンゴ礁の消失	99%以上
26～77cm	2100 年までの海面の上昇	1.5℃よりさらに 10cm

出典：大阪府地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

(2) 国内の動向

国内では、内閣総理大臣が令和2(2020)年10月の所信表明において、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

さらに、令和3(2021)年4月には、地球温暖化対策推進本部において、「2030年度の温室効果ガスの削減目標を2013年度比46%削減することとし、さらに、50%の高みに向けて、挑戦を続けていく」旨が公表され、同年6月に改正地球温暖化対策推進法(以下「温対法」という。)が施行されました。

こうした国内外の潮流を受け、「2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指す旨を表明する地方公共団体は増加し、全国各地で脱炭素化に向けた取り組みが進められています。

令和6(2024)年12月末現在、1,127自治体、大阪府内では、門真市を含む30自治体が「2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロ」を表明している状況です。



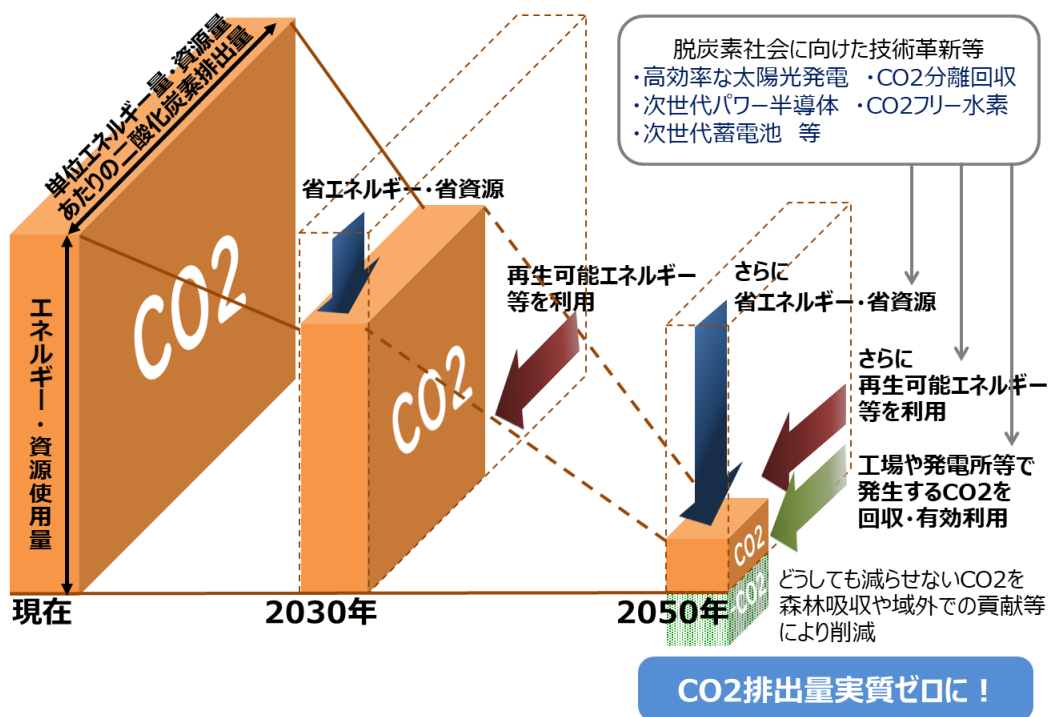
出典：環境省 地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト

図1-3 大阪府内におけるゼロカーボンシティ宣言表明状況

(3) 大阪府の取り組み

大阪府では、事業活動における温室効果ガスの排出抑制や建築物の環境配慮などを推進するため、「大阪府温暖化の防止等に関する条例」を平成 18(2006)年4月に施行しました。令和5(2023)年4月には、条例名称を「大阪府気候変動対策の推進に関する条例」とし、地球温暖化対策を強化しています。

また、温対法及び気候変動適応法に基づく「大阪府地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」や、「おおさかスマートエネルギープラン」を策定し、府域の「2050 年二酸化炭素排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)」を目指し、取り組みを推進しています。



出典：大阪府地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

図1-4 大阪府の2050年二酸化炭素排出量実質ゼロに向けたアプローチ(概念図)

1-3 門真市の取り組み

門真市では、「地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」として、平成 13（2001）年に「第1期門真市エコオフィス推進計画」を策定以来、これまでに4度の改定を行い、市の事務事業から排出される温室効果ガス削減等の取り組みを推進してきました。

第5期計画では、目標を達成し、計画期間を満了したため、新たな目標値や取り組み施策を掲げた「第6期門真市エコオフィス推進計画」に基づき、今後も行政自らが率先して温室効果ガスの排出を抑制すべく、積極的な取り組みを推進していきます。

表1-1 第6期門真市エコオフィス推進計画における数値目標

年度	2015 年度	2020 年度	2022 年度	・・・	2030 年度
排出量(t-CO ₂)	33,366	22,776	22,717	・・・	18,684
削減率	—	31.74%	31.92%	・・・	44%

※国の削減目標は 2013 年度比で 50%ですが、門真市では基準年度が 2015 年度のため、国の 2013 年度から 2015 年度の削減実績（6%）分を除き 44%としています。

また、令和 4（2022）年 6 月には、門真市議会第 2 回定例会において、市長が令和 32（2050）年までに二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指すことを表明し、令和 5（2023）年 10 月には環境省の「デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）」の取り組みに賛同し、「デコ活宣言」をしました。

コラム：デコ活

「デコ活」とは、二酸化炭素（CO₂）を減らす（Decarbonization）と、環境に良い（eco）を含む“デコ”と活動・生活を組み合わせた新しい言葉で、2050 年カーボンニュートラル及び 2030 年度削減目標の実現に向けて、CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のために、国民・消費者行動変容、ライフスタイル変革を後押しするための新しい国民運動です。

門真市では、本取り組みに賛同し、「デコ活宣言」をしました。

「デコ活」の推進により、市民の行動変容、ライフスタイル変革を後押し、脱炭素社会の実現を目指します。

デコ活アクション まずはここから！

- デ** 電気も省エネ 断熱住宅
- コ** こだわる楽しさ エコグッズ
- カ** 感謝の心 食べ残しゼロ
- ツ** つながるオフィス テレワーク

出典：環境省 デコ活ホームページ